

ナミビア月報

(2021年8月)

在ナミビア日本国大使館

【内政】

- 新型コロナ対策措置の一部緩和

【外交・対外関係】

- 独、グリーン水素事業に 682.3 百万ナミビアドルの支援
- 蘭、アストラゼネカ・ワクチン 75, 000 ドースを贈与
- 大統領、次期ザンビア大統領に祝意メッセージの発出
- セルビア外相の来訪
- 米国議員団の来訪
- EU、18 百万ナミビアドルのコミュニティ支援
- 大統領、ヒチレマ・ザンビア大統領宣誓式に出席
- IMF、ナミビアに 38 億ナミビアドルの特別引出権 (SDR) を承認

【経済】

- 全人口の 20%が深刻な食糧不足
- 貿易額は拡大傾向
- インフレ率 4.0% (昨年 2.1%) に上昇
- 2021 年経済成長率 1.4%
- ドバイ万国博覧会 2020 への参加
- ナミビアの失業率の高さ、世界第 2 位に

【その他】

- クリスティーン・ムボマ、東京オリンピック女子 200mで銀メダル
- クリスティーン・ムボマ他東京オリンピック選手団の帰国
- 野生象、57 頭のオークション実施
- アナニヤス・シコンゴ、東京パラリンピック男子 400mで銀メダル

【内政】

- 新型コロナ対策措置の一部緩和

13日、ガインゴブ大統領は、過去2週間の感染状況を踏まえ、8月15日から9月14日までの間、新型コロナ対策措置を一部緩和する旨発表した。大統領は、過去2週間、新型コロナ

ナの感染率は28%から15%に減少、新規感染者数は52%減少、死者数は500人から205人に減少した等説明し、(1)集会における人数制限を従来の50人から100人とする事、(2)学校の授業については、感染予防措置を取った上で対面授業の再開を含む通常授業に戻すこと等緩和措置とする旨発表した。(16日付ニューエラ紙3面)

【外交・対外関係】

●独、グリーン水素事業に 682.3 百万ナミビアドルの支援

独政府は、第2次ハランベール繁栄計画の重点取り組み事業として盛り込まれているグリーン水素事業を支援する目的で、682.3 百万ナミビアドル（40 百万ユーロ）を支援することが明らかになった。同事業に対する支援については、3 日、グリーン水素事業計画発表会及び第2次ハランベール繁栄計画第1 四半期報告会において、カンジョゼ国家計画委員長官により言及された。カンジョゼ長官は、独政府からの支援は、グリーン水素に係るフイージビリティ調査及びナミビア・グリーン水素協議会（Green Hydrogen Council of Namibia）の設立経費等に活用される旨説明した。なお、グリーン水素事業は、今後、ナミビア大学が中心となって、ナミビア及び独の関係機関によって推進される予定である。

（注）第2次ハランベール繁栄計画：本年3月18日に、ガインゴブ大統領により発表された2021年から2025年に実施される開発計画。

（6日付ナミビアン紙3面）

●蘭、アストラゼネカ・ワクチン 75, 000 ドースを贈与

8 日、蘭政府の贈与によるアストラゼネカ・ワクチン 75, 000 ドースがホセア・クタコ国際空港に到着し、11 日にナンディンダイトワ副首相兼国際関係・協力大臣とピーター・スラン大使（駐南ア）が出席し、同引渡し式が行われた。（13 日付ナミビアン紙 5 面）

●大統領、次期ザンビア大統領に祝意メッセージの発出

17日、ガインゴブ大統領は、先の選挙で当選を果たしたハカインデ・ヒチレマ・ザンビア次期大統領に対し、祝意のメッセージを送り、「ナミビア国民及び政府を代表して、歴史的なザンビア共和国大統領選挙について、貴殿、ザンビア政府及び国民に対し、心から祝意をお伝えしたい。私は、閣下と緊密に協力して、二国間協力を更に強化するとともに、我々の国民と国の生活水準を向上させるために地域の開発アジェンダを推進して行くことを楽しみにしている。」等伝達した。（18日付ニューエラ紙1面）

●セルビア外相の来訪

20日、ニコラ・セラコビッチ・セルビア外相はナミビアを日帰り訪問し、滞在中、ナンディンダイトワ副首相兼国際関係・協力大臣との会談を行い、その後、スポーツニクV・ワクチンの贈与に関する合意文書に署名を行った。（21日付MIRCOフェイスブック）

●米国議員団の来訪

20日、ガインゴブ大統領は、大統領官邸においてカレン・バス（Karen Bass）下院議員が率いる米国議員団の表敬訪問を受けた。同議員団は、米国ビジネス関係者を伴って訪問中である。議員団の一員であるブレンダ・ローレンス下院議員は、我々はグリーン水素事業に関与できる可能性があるか、また、米国・ナミビア間の貿易の拡大について関心を有している、更に、投資の可能性についても探してみたいと考えている旨述べた。イーブンブ産業化・貿易大臣は、米国のAGOA（African Growth and Opportunity Act）を活用して、ブドウ、なつめやし、鉱物、皮革、ハンド・クラフト等の産品を米国への輸出に繋げたい旨述べている。（23日付ニューエラ紙3面）

●EU、18百万ナミビアドルのコミュニティ支援

ジェンダー・貧困撲滅・社会福祉省は、EU及びWFPの協力を得て、コマス州とオムサティ州において新型コロナ、干ばつ被害により困窮するコミュニティに対し、特別現金支給プログラムを実施する旨発表した。7月から9月までの3ヶ月間に亘り、毎月一世帯当たり600ナミビアドルが支給されるプログラムで、合計6,900世帯を対象として総額12百万ナミビアドルが支給される。

フェザWFP代表は、同プログラムに関し、EUから18百万ナミビアドルが拠出されており、食料援助に繋がる新たな取組みとして期待される旨述べている。（23日付ナミビアン紙3面）

●大統領、ヒチレマ・ザンビア大統領宣誓式に出席

24日、ガインゴブ大統領は、ルサカのヒーローズ・スタジアムで開催されたヒチレマ・新ザンビア大統領の宣誓式に出席した。大統領は、同宣誓式における挨拶で、「ザンビア国民は自由で、公正な、かつ平和裡に選挙を実施し、自分たちが望む指導者を選択した。このことは、ザンビアにおいて確固たる民主主義原則が確立していることを示すとともに、全てのSADC諸国にとって誉れとなるものである」旨述べた。また、大統領は、私個人及びナミビア政府として、ナミビア・ザンビア二国間及び両国国民間に存在する強固な友好関係並びに連帯を、継続して構築して行くことを再確認する旨述べた。（25日付ニューエラ紙3面）

●IMF、ナミビアに38億ナミビアドルの特別引出権（SDR）を承認

23日、IMFはナミビアに対し38億ナミビアドルの特別引出権（SDR）の割り当てを決定した。なお、5ヶ月前には、IMFとしては、別途ナミビアに対し39億ナミビアドルの融資を行うことを承認している。（27日付ナミビアン紙14面）

【経済】

●全人口の20%が深刻な食糧不足

首相府関係者は、2020年においてナミビアの全人口20%にあたる427,905人が深刻な

食糧不足を経験した旨述べた。同報告は、9月に予定されている国連食料システムサミットに向けた国内準備会合において首相府関係者が行った。食糧不足の深刻な州は、クネネ、エロンゴ、コマス、オハングウェナ、西カバンゴ、オマヘケ及びザンベジである。食糧不足の原因は、新型コロナの影響、家畜を襲った口蹄疫、バッタ等害虫被害が挙げられる。ナミビアは、毎年、主としてマハングをインドから、メイズを南アから、小麦をインド、ポーランド、ロシア、南アから輸入している。また、ナミビア農業委員会（NAB: Namibian Agricultural Board）は、マハングについて、国内の生産量は全消費量の27%、白メイズは同37%、小麦は同10%しか生産できていない旨報告した。（2日付ナミビアンサン紙3面）

●貿易額は拡大傾向

ナミビア統計局は、2021年6月版貿易統計を公表したところ、6月の輸出額は86億ナミビアドルを記録した。これは、54億ナミビアドルであった本年5月の輸出額と比較し、58.5%増となった。また、2020年6月の輸出額が76億ナミビアドルであったので、昨年6月比で14.1%の増加となっている。他方、本年6月の輸入額は、96億ナミビアドルで、先月5月比で11.4%の増加、2020年6月の輸入額は72億ナミビアドルであったので、昨年6月比で25%の増加となっている。

2021年6月の主要輸出品はウランで輸出総額の33%を占め、輸出先は大半が中国、一部カナダである。続いて、同輸出総額の25.8%を占める銅で、銅の輸出先は、蘭、中国、ベルギーである。その他、ダイヤモンド、魚類が主要輸出品目となっている。（5日付ナミビアンサン紙経済面1面、ニューエラ紙9面）

●インフレ率4.0%（昨年2.1%）に上昇

ナミビア統計局は、インフレ率を公表し、2020年7月時の年間インフレ率は2.1%であったが、本年7月時の年間インフレ率は4.0%に上昇したと発表した。同インフレ率の上昇の主な要因として、(1)輸送関連経費（交通費、車購入費等）、(2)食品及び飲料（アルコール飲料を除く）、(3)家具・家庭用器具、等の支出増が挙げられると説明している。（16日付ナミビアンサン紙経済面1面）

●2021年経済成長率1.4%

中央銀行が公表したところによると、2021年のナミビアの経済成長率（GDP成長率）は1.4%、2022年の同成長率は3.4%と見込まれる。なお、2020年の同成長率は-8%であった。1.4%の経済成長を牽引しているセクターとしては、鉱業分野及び第三次産業が挙げられる。ただし、本年2月時点で経済成長率見通しが2.7%であったものが、今回1.4%と下方修正された要因としては、特に鉱業分野でダイヤモンドの生産量が目標を達成できていないこと、及び第二次産業の回復が伸びていないことによると説明している。（17日付ナミビアンサン紙経済面1面）

●ドバイ万国博覧会 2020 への参加

ナミビアは、本年 10 月 1 日から 2022 年 3 月の間開催されるドバイ万国博覧会に 190 カ国以上の国々と共に参加する。ドバイ万博は、当初 2020 年 10 月 20 日から 2021 年 4 月 10 日間の開催予定であった。ムユンダ環境・森林・観光省報道官は、ナミビア・パビリオンについては、観光業の投資誘致を目的とすることのみならず、他のナミビア主要セクターの投資に繋がるショーケースとしたい旨述べている。(23 日付ナミビアンサン紙 4 面)

●ナミビアの失業率の高さ、世界第 2 位に

ブルームバーグが公表した失業率調査によれば、ナミビアの失業率は 33.4%と調査対象国 82 カ国中第 2 位に高い水準である由。同調査によれば、南アの失業率は 34.4%で最も高く、第 3 位が、ナイジェリアの 33.3%となっている。2021 年 6 月にナミビア統計局が発表した経済統計では、2021 年第 1 四半期のナミビアの実質経済成長率は-6.5%で、2020 年同期の実質経済成長率-2.5%を更に下回っている。また、2021 年第 2 四半期のセクター別成長率では、建設業が-23.9%、製造業-22.3%、鉱業-19%である。(30 日付ナミビアンサン紙 3 面)

【その他】

●クリスティーン・ムボマ、東京オリンピック女子 200mで銀メダル

3 日、東京オリンピック女子 200m決勝で、クリスティーン・ムボマ (Christine Mboma) 選手が銀メダルを獲得、ビートリス・マシリング (Beatrice Masilingi) 選手が 6 位に入賞した。ナミビア選手のオリンピックでのメダル獲得は、1996 年アトランタ・オリンピックにおけるフランク・フレデリクスの銀メダル以来 25 年ぶり。

(注) フランク・フレデリクス (Frank Frederics) は、1992 年バルセロナ・オリンピック及び 1996 年アトランタ・オリンピックにおいて、男子 100m及び 200mの 2 種目でそれぞれ銀メダルを獲得している。

(4 日付ニューエラ紙 1 面、ナミビアン紙 1 面、ナミビアンサン紙 1 面)

●クリスティーン・ムボマ他東京オリンピック選手団の帰国

10 日、東京オリンピック女子 200m競技で銀メダルを獲得したクリスティーン・ムボマ選手他ナミビア・オリンピック選手団が帰国した。10 日午後、選手団一行はホセア・クタコ国際空港でチョンガレロ・スポーツ・青年支援サービス大臣他政府関係者の出迎えを受け、準備された車列でウィントフック市内へ向かった。道中、沿道の多くの市民から歓迎を受けた。クリスティーン・ムボマ選手、ビートリス・マシリング選手及び 2 人のコーチであるヘンク・ボータ氏は市内で記者会見に臨み、同記者会見において 3 人はチョンガレロ大臣からナミビア外交旅券を授与された。その後、大統領府において、ガインゴブ大統領主催の夕食会に招待された。(11 日付ナミビアンサン紙 1 面、ニューエラ紙 1 面、ナミビアンサン紙 1 面)

●野生象、57頭のオークション実施

11日、環境・森林・観光省は、競売を予定している野生象170頭のうち57頭（うち42頭は輸出）について昨年12月にオークションを実施し、590万ナミビアドルの収益を得た旨公表した。同省は、収益金は、野生動物保護及びコミュニティ保護のため活用される旨述べ、また、かかる野生象のオークションにより、財産の損害、人命の損失及び住民の生活を脅かしている特定の地域の野生象の数を減らすことを目的としている旨説明した。

（12日付ニューエラ紙1面、ナミビアン紙7面）

●アナニマス・シコンゴ、東京パラリンピック男子400mで銀メダル

29日、東京パラリンピック男子400m（視覚障害）でアナニマス・シコンゴ選手が銀メダルを獲得した。シコンゴ選手は、2016年リオ・パラリンピックでは、200mで金メダル、100mと400mで銅メダルを獲得している。（30日付ナミビアン紙1面、ニューエラ紙1面、ナミビアンサン紙1面）

（了）